



子どもたちは遊びで育つ

みなさんこんにちは。ゼルビアいもづるの会村長の守屋です。

春先から続くコロナウイルス感染拡大の影響からずっと開催できなかったいもづるの会ですが、ようやく2020年度第1回目を開催することができました。雨続きの7月でしたが、この日は雨も上がりたくさんの方々に参加いただきました。子ども14人、おとな14人計28名という大所帯での活動になりました。

国土館大学の永吉先生や「たがやす」の斎藤さん、青山さん、皆川さん…いつものメンバーが活動を支えてくださいました。

まずはみんなで夏野菜の収穫です。ナス、トマト、ピーマンなどわいわいがやがやと収穫していきました。野菜の価格が高騰しているので、お母さんたちは大喜び。収穫の楽しさもいもづるの会の魅力の一つですね。



さあ、収穫が終わったら、子どもたちにとってのメインイベント「秘密基地づくり」です。いもづるの会を始めたとき、真っ先に取り組みたかった体験活動です。私自身、小さかったころ秘密基地づくりが大好きでした。藪の中や木の上に基地を作り、自分たちの世界を楽しみました。

ブルーシート、段ボール、ガムテープ、ひも、のこぎり、木づち…材料や道具だけ用意されていますが、今年のテーマ「子ども」が「自分で」を体験の中でつかみ取って欲しいと思い、全てを子どもたちに任せました。本来遊びは、強制や拘束を受けることなく、自由に、自発的になされるものです。それだからこそ、子どもたちは目を輝かせ、主体的に、そして創意工夫して基地づくりに没頭していました。段ボールをつなぎ合わせる子、インディアン状の物を作る子、柱を立てて本格的な基地づくりに挑戦する子…こうした意欲や自主性こそが生きる力です。どの子も自分たちの作った秘密基地に大満足でした。失敗や思うようにいかなかったことも大きな体験です。遊びには子どもたちを豊かに育てるエッセンスが詰まっています。



入り口もないとね。
えーとなんで作ろうか。



ここがおれの部屋だよ。
けっこう広いでしょ。



いもづるの会・ねじいも村長

では、ごきげんよう、さようなら。